

# 岩崎 奏波

IWASAKI, Kanaha

## 同時性

Synchronism



へびであり、ちょうである / Ruins  
ミクストメディア / Mixed media / サイズ可変 / Variable size



自分が触れたものや拾い上げたものが、移動して、また  
この手を離れていく  
物語が四方八方に広がっていく  
時間は静止していない 通過していくものでもない  
全て同時に存在していて、全部が一つに選っていく

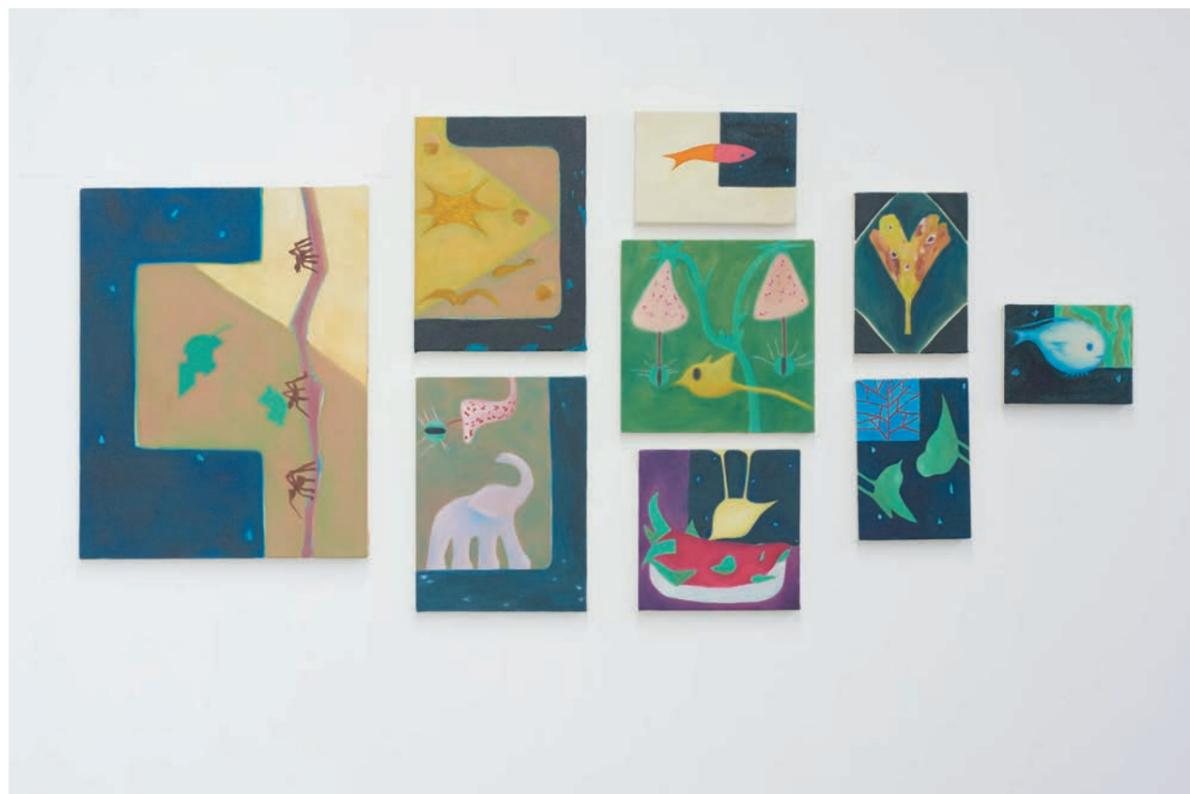
# 王菲

WANG, Fei

## 愛とリアリティ

Love and Reality

自然界に存在する植物を中心に、研究を行いながら、観察を通し、肉眼では見えない存在の可能性を“もの”や“こと”で研究している。自然の中にある秩序と自分自身で感じているあやふやな瞬間的な感覚体験を参考に自分が生きている空間の形を描こうとしている。



Where am I?  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas  
サイズ可変 / Variable size



# 王露怡

WANG, Luyi

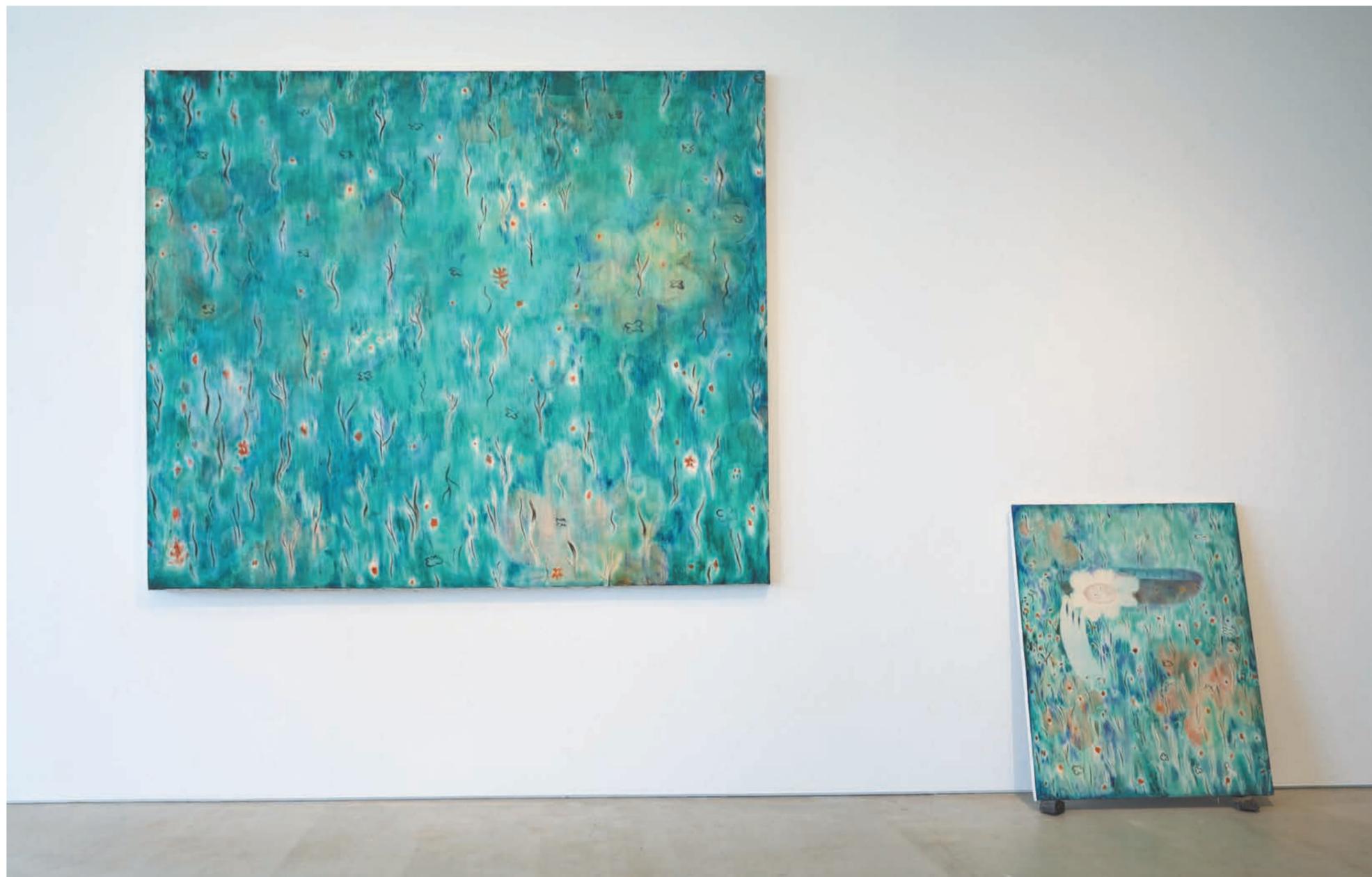
## 非現実的な現実

個体とそれが依存する世界

Unreal Reality

The Individual and the World it Depends on

私は常に個体と周囲の世界との関係や距離を絵の形で記録している。夢、記憶や日常生活から突然浮かぶ空想などの表現を作品の主体として制作している。実在のような非実在のような、とらえどころがない人物や植物、私は彼らからの視線を感じる。そしていつのまにか、彼らは最初から存在しなかったかのように姿を消した。



Grow  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 162 × 194 cm  
Flower Eater  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 91 × 73 cm

# 小熊 杏奈

OGUMA, Anna

## 絵画 背景

Painting Background



作品の価値、鑑賞について考えている。

近年、美術館で作品を背景にして写真を撮り SNS に投稿することが鑑賞の一つの楽しみ方となりつつある。それはただの思い出のためなのか他人への報告なのか、はたまた見映えのためなのか。

記録や布教などの役割を持っていた絵画が、印刷技術の発展や、写真の登場によってその役割が薄まり、多様な表現が生まれてきた。美術は時代によって変わるものであるし、昔は鑑賞することが主ではなく、美術にも絵画にもならぬ役割があったのだ。



伝えたいこと / Message to be conveyed  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 356 × 242.3 cm



コスモス / Cosmos  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 200 × 400 × 300 cm



強く生きる / Tenaciously living  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 90 × 400 × 40 cm



Damask 2022  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 350 × 400 cm

## 柿澤 教幸

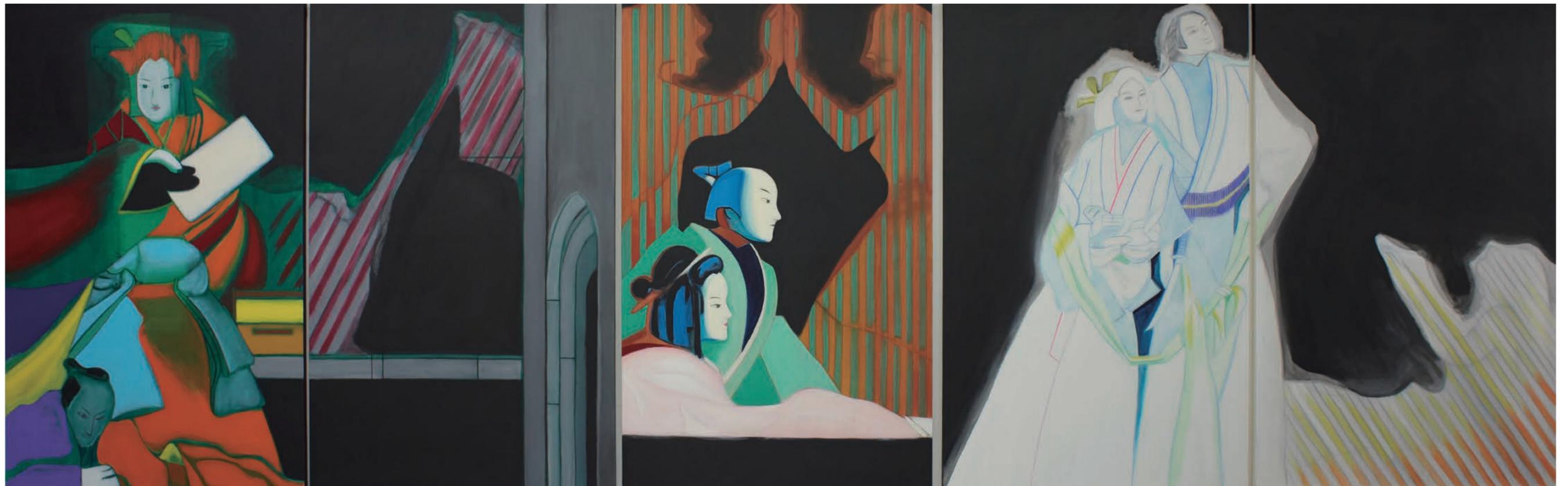
KAKIZAWA, Noriyuki

### 古代中国五行説と現代アートの色彩について

Studies on the Comparison of Colors Between Ancient Chinese Philosophy and Modern Art

私はテーマ「人生100年時代~どのような絵画に囲まれて最期を迎えたいですか~」を研究してきた。自ら歩んできた人生の中で最も印象に残ったものを人生ステージ毎に古代中国五行説による「青」、「赤」、「黄」、「白」、「黒」の五色を基本色として大作連作してきた。修了制作は「愛と死」という題名で、文楽「曾根崎心中」をメインにして「ロミオとジュリエット」を黒子に仕立て、最後の人生ステージを基本色「黒」により飾ることにした。

修了論文「古代中国五行説と現代アートの色彩について」は、五行説を源流まで遡ってその意味を探り、これに相当する現代アートの巨匠たちの色彩、ピカソ「青の時代」、マティス「赤いアトリエ」、ゴッホ「ひまわり」、ロバート・ライマン「アシスタント」、横尾忠則「男の死」とを比較した。これら古代と現代の五色の光によって私の絵画を照射して、自らの連作における色彩の意味を検証し、その今後の可能性を検討した。



愛と死 / Love and Death

アクリル絵具、グラファイト、色鉛筆、クレヨン/キャンバス

Acrylic, graphite, colored pencil, and crayon on canvas

227.3 × 727.5 cm

## 加藤 舞

KATO, Mai

### みつめる

To Gaze Intently



この先 / From now on  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas  
227.3 × 181.8 cm

日々を過ごす中で沢山のものを記憶して、どんどん忘れていってしまうものをなんとか描き留めようとする。

曖昧な映像や音声を自分の中で都合よく勝手に色彩や形とつなぎ合わせ、チグハグな新しい形に変化しながらも懐かしい何かを思い出す。

生きるという詩で谷川俊太郎さんは「完成していない、

ほころびがある詩だからこそ読んだ人が入ってきてくれた」と語っている。

その言葉は私の絵画にも存在している気がする。

自分が宇宙の中の存在であることと人間社会の中の存在であるということを忘れずに両方を絵を描くときも持っていようと思う。



Promising young woman  
油彩 / キャンバス / Oil on canvas  
180 × 350 cm

# 樺山 祐人

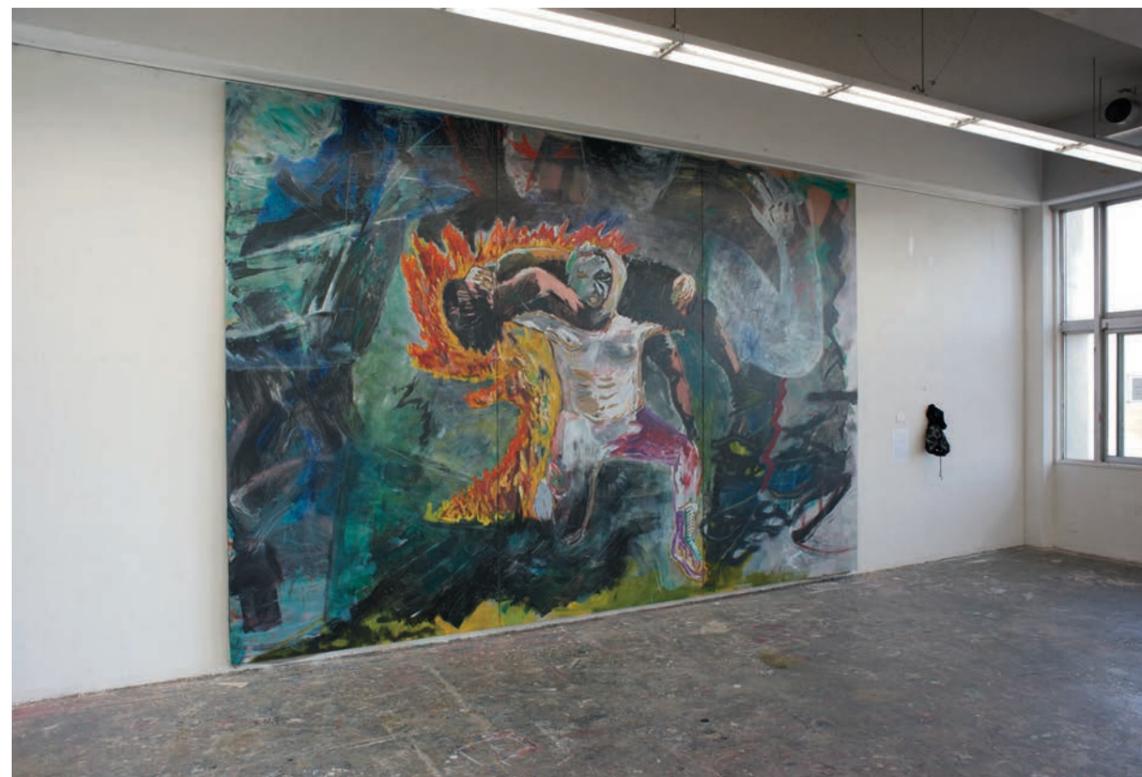
KABAYAMA, Sachihito

## 衝撃的で崇高な巨大作品の制作

Production of Shocking and Noble Giant Works



リンピア【善玉】 / Rinpia  
油彩、クレヨン / キャンバス  
Oil and crayon on canvas  
336 × 495 × 3 cm



マスクをつけることによって人は普段と違う自分の中の性格や能力が出てしまう物だと思っている。マスクを常に付けるようになった現代、人が以前より内向的になったと感じる。これはマスクによって顔の大半が隠れてしまうことが原因だと思う。しかしマスクは押さえ込むだけではない解放もしてくれる。本来マスクとは仮面ライダーやウル

トラマン。ヒーローのイメージがあった。私にとって最初に浮かんだマスクがプロレスの覆面マスクだった。マスクマンの聖地メキシコのプロレスにはルチャリブレという儀式があった。これはもともと圧政者から自由を勝ち取る儀式でありお祭りだった。この絵は私にはとってコロナに対するルチャリブレだ。



# 姜子元

JIANG, Ziyuan

## 時間の痕跡

Traces of Time



祈り / Pray

油彩、クレヨン、アクリル絵具、スプレー / Oil, crayon, acrylic, spray paint / 227.3 × 181.8 cm



時間の痕跡 / Trades of time

油彩、クレヨン、アクリル絵具、スプレー / Oil, crayon, acrylic, spray paint / 162 × 194 cm



富士河口湖 / Fuji Kawaguchi Lake

油彩、クレヨン、アクリル絵具、スプレー / Oil, crayon, acrylic, spray paint / 130.3 × 162 cm

人間はずっと時間という目に見えないものに対して様々な研究や探索を行ってきた。芸術家たちはできる限り画像情報を用いて時間という概念を表現しようとしている。でも今の時代には私たちはあまりにも便利で、大量の画像情報を得ることができる。私たちをもっと貪欲にもっと多くの時間を得たいと思っている。ジャコメッティは単なる存在者を描いているだけであり、人間の存在を表現した作品を目指していた。彼の絵の中で、存在の手がかりを掴むことができる。彼は時間を引き留めたいかもしれないが、現

代の絵画は自然の調和の美を追求するのではなく、媒体として存在している。しかし絵画の歴史は古い。先史時代の人類は洞窟の壁に手形を描き、彼らはただ手を描いているのではなく、自分の存在を証明するためだ。それは絵画の起源だという説がある。すべての存在は時間の中に存在する。イギリスの有名画家デビッド・ホックニーはこう言っている：「絵画は話せないし、動かない…、しかし絵画のほうが人間より遥かに長生き…」

## 吴芷婷

WU, Zhiting

### 絵画における「痕跡」の自我表現についての研究—自作に基づく

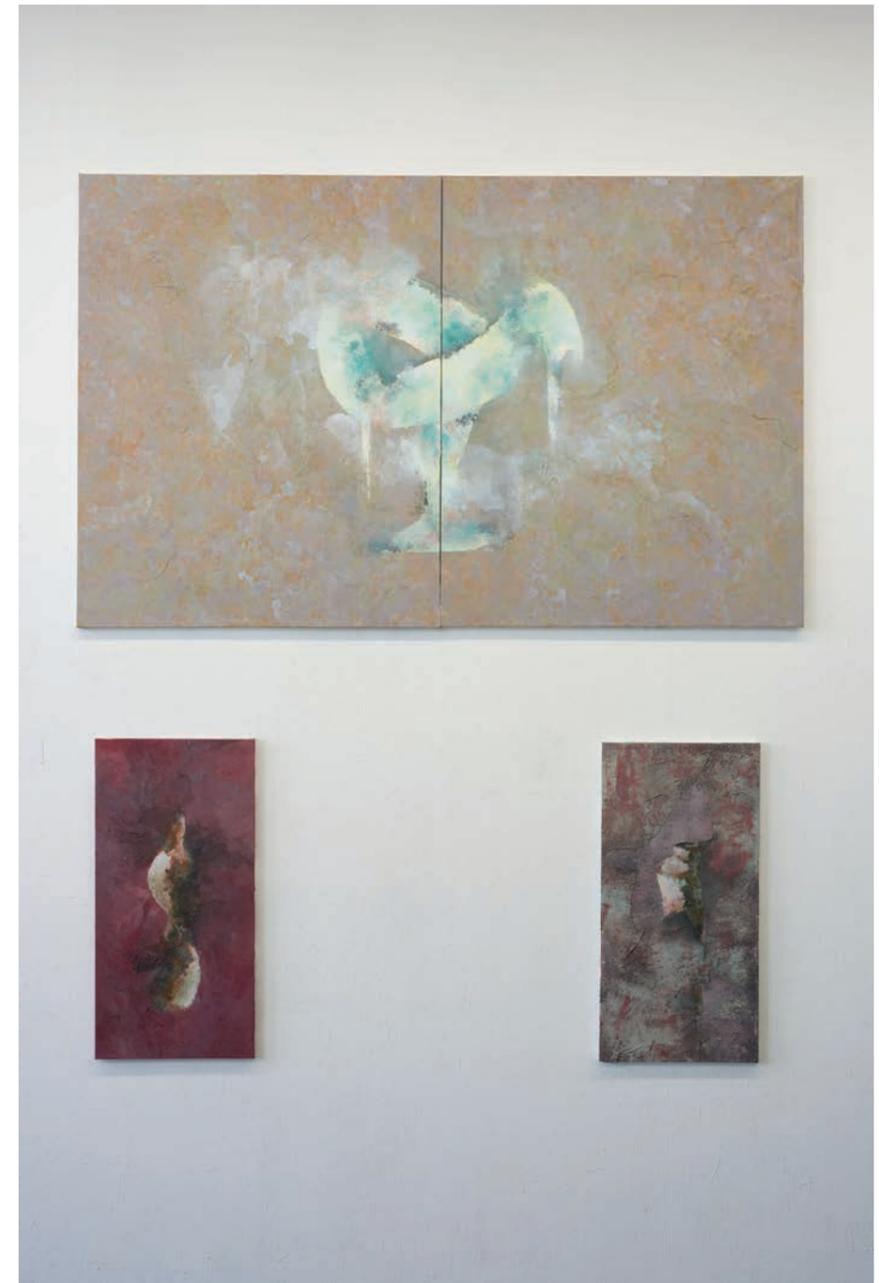
A Study of the Ego Expression of "traces" in Paintings - Based on One's own Work



中 / Inside  
アクリル絵具、水彩、紙 / Acrylic, watercolor on paper  
259 × 194 cm

心理学の「枠組み」という絵画治療法をきっかけに、枠の中にはどんな出てくるかという発想でキャンパスでティッシュを使って枠を作った。その枠の中に自分しかない心象風景だという痕跡を作った。しかし、一旦枠という明確なものをつけると、とにかくその縛りのような空間から逃げ出そうとする。

「侘び寂び」に対して私がもっているイメージは静という空間の雰囲気である。下の二つ縦のキャンバスには陶芸の花瓶を描きやすい、その場により花瓶から静という私が理解している痕跡が生まれる。竹紙を貼り付けて、シワシワな跡が背景に時間性を持たせる。主体は実物ではなく、日常で見えるものの形を重ねて組んだものである。器も見えし、鳥にも見えし。それは見る人によって常に変わっていく痕跡のようになった。



静 / Calm  
アクリル絵具、墨、紙、布 / acrylic, ink, paper on cloth  
180 × 200 cm / 70 × 35 cm / 70 × 35 cm

## 沈凡溪

SHEN, Fanxi

### 現実と夢の間に

Between Reality and Dream

人間である私たちの生活において、眠ることから離れることはない。眠るために、目を閉じていかにも無防備で頼りない行為で自分の内面と静かに向き合う、また内面を見つめ直すことを促すこともできる。

私は時々不眠に悩まされている。不眠から夢まですなわ

ち現実から夢に入る過程について考え、自分の夢世界を探求したい。そして夢というテーマをめぐって作品を作り、自分の内在世界を感受しながら、私にとって絵を描く意味を考えてみたいと思う。



消えてゆく夢をたどるII / Pursuing a vanished dream II  
油彩、アクリル/キャンバス / Oil and acrylic on canvas / 240 × 500 cm



消えてゆく夢をたどる / Pursuing a vanished dream  
油彩、アクリル、布、木枠 / Oil, acrylic, drapery, wood / 250 × 160 cm

## 張晶晶

ZHANG, Jingjing

### 絵画における子供の感情を描写すること

ボディランゲージと色彩的心理効果から

Depict Children's Feelings in Painting

From Body Language and Color Psychological Effects

漫画と絵画を結びつけて、ストーリーを表現したいと思っている。この物語が表現したい意味は「苦境のなかでも自立するしかない」というものだ。ある人が水辺を歩いていて、一足で水の中に足を踏み入れて、沈んで飲み込まれて、彼は海底に沈んで、海草に絡まって、逃げられなくて、そこで彼は「誰か私を助けてくれないか？」と言う。結局、努力を放棄し、他人の救いを待っていた。その時同じように海草に絡まれた魚を発見して、その魚は強い意志で努力して海草の束縛を抜け出して、彼の目の前に自由に向かっていった。



頑張った魚 / Hardworking fish  
アクリル、顔彩 / キャンバス / Acrylic and pigments on canvas / 220 × 180 cm

# 張平成

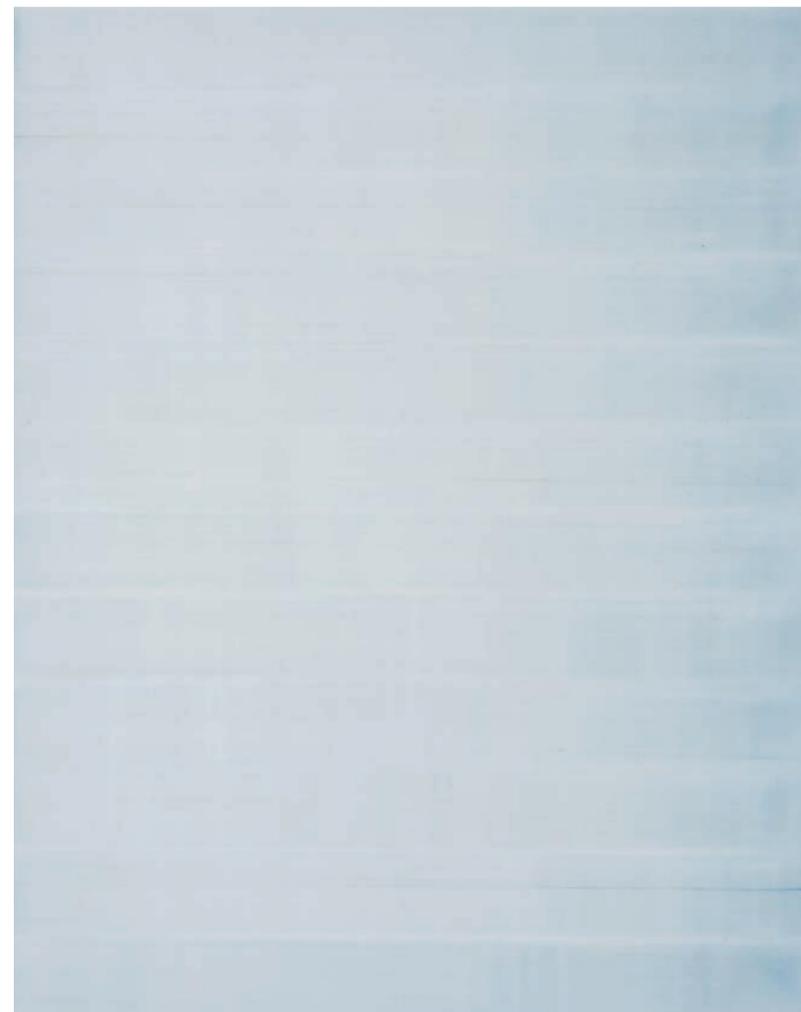
ZHANG, Pingcheng

## 季節の息

Seasonal Breath



季節の息10-20 / Seasonal Breath 10-20  
ミクストメディア / mixed media / 227 × 182 cm



季節の息12-1 / Seasonal Breath 12-1  
ミクストメディア / mixed media / 227 × 182 cm

生活は毎日相似ですが、違います。筆の動きは毎日相似ですが、違います。刻々と変化する日月歳差(朝と夜の反復、あるいは季節の反復)を感じとるため、繰り返しの制作過程で宇宙や世界を含んだ自然を探求します。自然に

存在する実感があるものや測り知れないものには、知覚意識や精神を通して、絵画の形式で表現します。

純粋な事物はなくなりやすい、だから絵を描きます。

## 杜鵬遠

DU, Pengyuan

### 疎外されている人を表現すること

The Representation of an Outsider

幼少期の頃親に言われたある言葉、学生時代偶然に通った本屋、昔見たあるつまらない映画、色々な記憶の欠片が潜在意識に根付き、後のある日に私たちが世界を扱う態度を影響する要素になる。このような脳の中に存在する記憶の集合体こそ「個性」と呼ばれているものだと思う。そして過去30日のうちにパネルに描かれて、お互いに重ねて覆い、最後に画面に残った記憶はこそ、1ヶ月分の自分の記憶と個性の具象化されたものであろう。

しかし、こういうことは誰も関心を持っていない。



良い明日へ / For a better tomorrow  
ミクストメディア / Mixed media / 347 × 620 × 440 cm

# 中田 愛美

NAKADA, Manami

## 直線を描くことと気づき

The Act of Drawing a Straight Line and Recognition

どうやら、定規は直線をひくことに特化した道具であるらしい。

定規が直線をひくための道具だとするならば、それすら使わずに直線を描こうとしている私はなんなのだろうか、と考えた。『私が定規を用いて直線をひく』ならば、定規という直線をひくのに適した道具を直線をひくという行為から排除するとき、“直線が私という媒体を使って、とある画面に直線を描かせている可能性”がある』のではないだろうか。

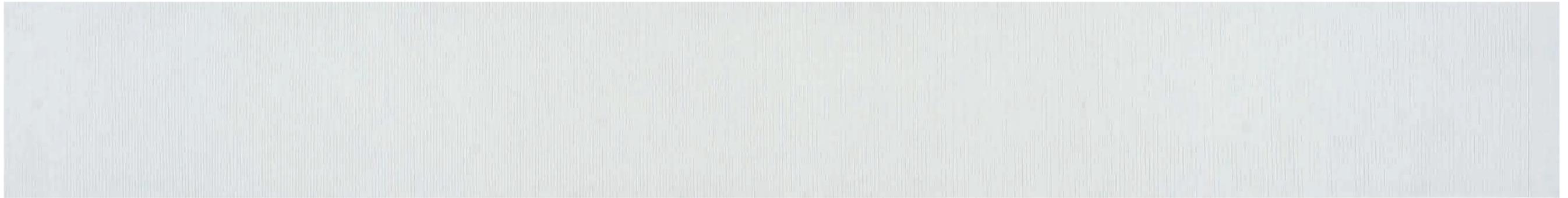
直線をひくという行為自体は私の意思によるものである。しかし、そのために使われるべき定規の役割を私は奪っているのである。私は描く側ではなく、描くために必要なものになろうとしているのだろうか。

一方で、直線は確固たる自信を備えている存在である。

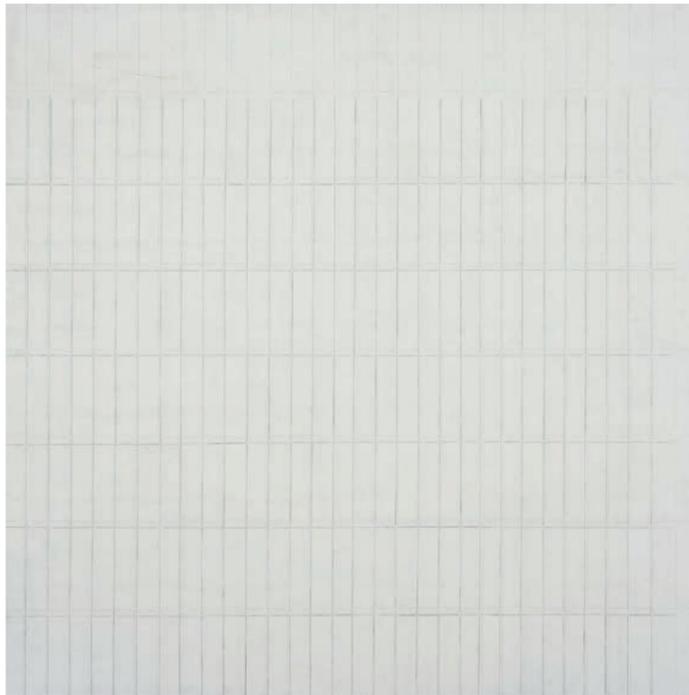
曲がることもブレることも歪むことも許さないように感じる。しかし、私の描く直線は曲がっているし、歪んでいる。不定形の波も打っている。何故、明確な直線が描けないのであろうか。筋肉のせいなのか、関節のせいなのか。身体のどこを見てもはっきりと直線と言える部分がないからなのか。

そう言えば、人間の身体には直線がない。昔の人は何を思って直線の存在に気づいたのだろうか。自然界でも直線と言うものは多くはないだろう。その人も私のように直線に執着を覚えたのだろうか。その結果、定規を編み出したのだろうか。人は「無い物ねだり」する生き物である。ないからこそ直線が恋しいのかもしれない。

一番初めに直線を引いた人は どんな人だったのだろうか。



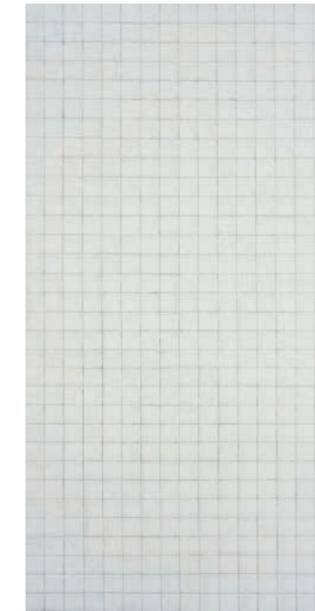
下方向への運動の横移動の線 / Horizontally moving lines of downward movement  
ジェッソ、鉛筆 / パネル / Gesso and pencil on panel / 45 × 364 cm



複数の線の移動 / Movement of multiple lines  
ジェッソ、鉛筆 / パネル / Gesso and pencil on panel / 162 × 162 cm



グリッド / Grid  
ジェッソ、鉛筆 / パネル  
Gesso and pencil on panel  
194 × 97 cm



正確に均等V / Accurately equal V  
ジェッソ、鉛筆 / パネル  
Gesso and pencil on panel  
182 × 91 cm



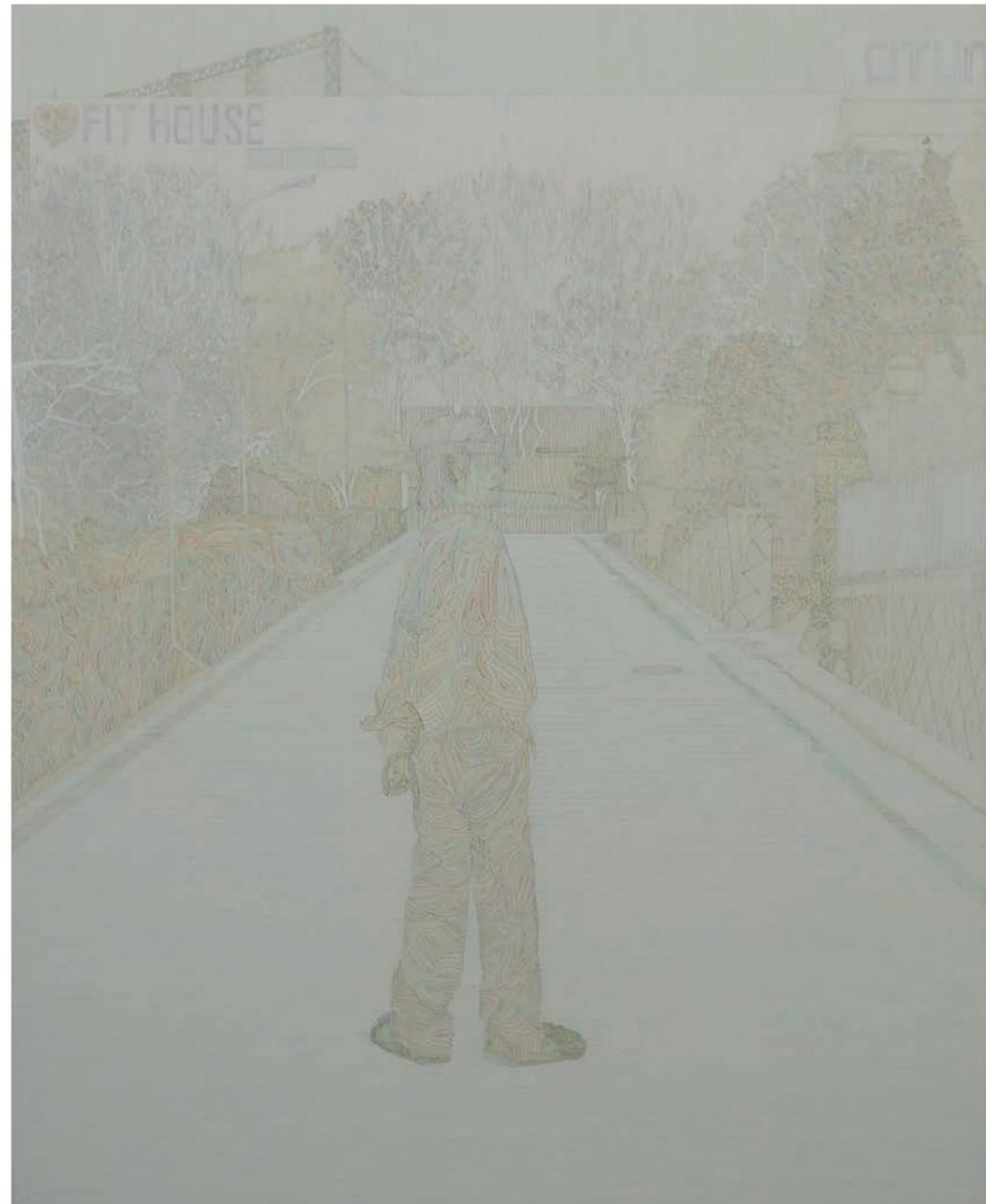
複数の直線 / Multiple straight lines  
ジェッソ、鉛筆 / パネル  
Gesso and pencil on panel  
182 × 91 cm

# 成瀬 拓己

Naruse, Takumi

## 情報社会における異国趣味と共同幻想

Exoticism and Illusions in the Information Society



記号からの解放 / Freedom from the sign  
水性顔料インク / キャンバス / Water-based pigment ink on canvas / 162 × 130.3 cm

神話に登場する神を木目から見立ててアニミズム的に掘り起こした事で生まれた疑問「神とは何か？」に対し、インターネットが発達した現代で娯楽や異国趣味として扱われるキャラクターを、形而上学的な存在として捉え、精神的な面での存在に変換することで、現代の「神とは何か？」を提示できる作品を作ることを研究目的としています。論文では、現代の異国趣味としてのアニメーションとキャラクターが二者の間の情報により発生する共同幻想によって実際より大きくみえてしまう「象」のメカニズムを2冊の著書から私なりに推測しました。

線は見えないものを映し出すと想着て制作しています。コロナにより目に見えない存在によって行動が制限されてしまう恐怖や、メランコリーな気持ちを、ベンヤミンの過去への解放と16世紀のペストの流行と黒魔術的なイメージを参考に、それらを現代に置き換え、衛生管理の徹底さから様子を変えた食、繰り返される機械的な映像と、身体を動かす事への欲求、点滅するネオンで過ぎていく時間、透明な人形、誰もいない席という構成で空間を作りました。



展示空間 / Exhibition space



Light emitting portrait  
水性顔料インク / 紙  
Water-based pigment ink on paper  
65 × 50 cm



Light emitting portrait  
ミクストメディア  
Mixed media  
65.2 × 53.2 cm



めたふいじかる / Metaphysical  
映像、プロジェクター  
picture, projector  
YouTube: <https://youtu.be/2bWVo1Ft5Gk>

# 野村 百花

NOMURA, Momoka

## 人間の身体の形で私の感情を表す

Express My Feelings With a Human Body

私が感じたことや考えたことを抜き取って、それを私ではない女性の身体を使って作品にしている。

考える  
Think  
油彩、オイルパステル、キャンバス  
Oil and oil pastel on canvas  
130.3 × 162 cm



## 下山 光央

SHIMOYAMA, Mio

### 私が絵画になるには。

For Me to Become a Painting

私は、自己の曖昧さから抜け出し、絵画になるために制作をしている。それは私が私であるという使命を全うすることと同じなのである。



未明 / Unspecified  
アクリル絵具 / キャンバス / Acrylic on canvas  
194 × 259 cm



未明 / Unspecified  
アクリル絵具 / キャンバス / Acrylic on canvas  
181.8 × 259 cm

## 林谷穠

LIN, Kunung

### 芸術鑑賞中の生物学と定義の歪み

Distortion of Biology and Definition in Art Viewing



左: 模擬SATリーディング試験 / 中: テストで時間切れになってしまう時に何も答えない人 / 右: テストで時間切れになってしまう時に全部Cを答える人  
Mock SAT Reading Section / Person Who Doesn't Fill in Anything When They Run Out of Time During the Test  
Person Who Fills in All C's When They Run Out of Time During the Test  
油絵具、麻布 / サイズ可変 / Oil on linen canvas / Variable size

大学の頃神経科学を専攻した。生物の勉強で、「知っている世界のすべては規則で作上げた」ことに気づいた。人は世界を理解しやすくするため、規則を作り上げ、万物を項目に分類する。

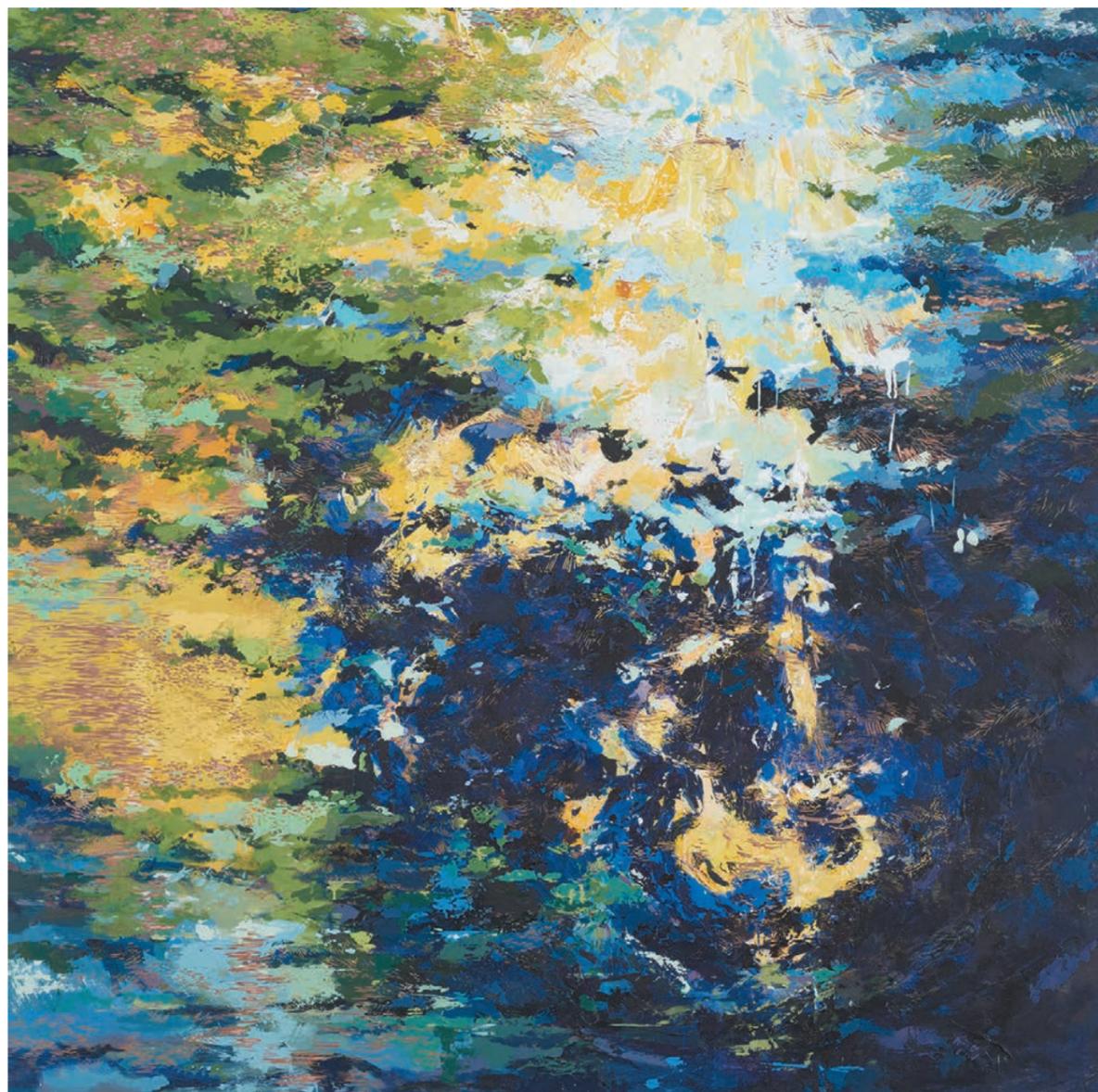
現在科学は先人が作り上げた項目と規則から世界を理解し、そして例外や理解し難い場合は実験を基に新たな規則を作る。このような原理も幼い頃から我々の日常生活に馴染むよう、自然に〈項目〉を使っている。しかし、科学の法則は変容し続ける。先人はすべての法則を発見している訳はない。例えば〈生物〉や〈生命〉はあくまでも先人が定義を作り上げた一つの項目である。そうであれば、定義と一致しない場合もあるだろう。

# 李昭旻

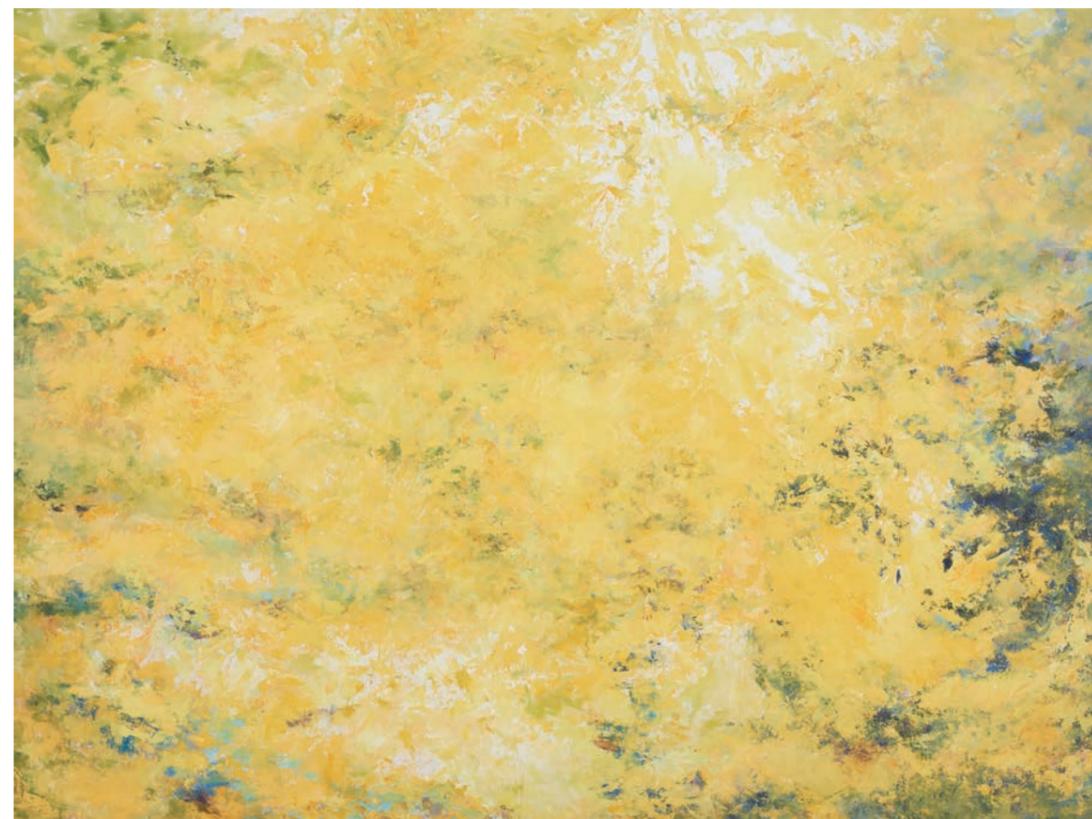
LEE, Somin

## 自分への肯定

Accept Myself



Colorful side  
アクリル絵具 / パネル / Acrylic on panel  
162 × 162 cm



Sunny side  
アクリル絵具 / キャンバス / Acrylic on canvas  
218 × 291 cm

普通で家庭で生まれ平凡で穏やかな人生を歩んできた人にも、その人しか出来ない表現がある。自ら過ごしてきた時間を否定しない作品を作りたい。むしろ、そうすることしか出来ない。日常の中で感じる幸福感や地味ながら安らげる感覚、自然から癒される気持ちなど、刺激は余り無いけれども、自分らしい感性を表現する。風景画と言えるだろうか。私は自然をもとに自分の心を映す絵を描く。その上、光の散乱、雲と風の揺らぎ等を龍を隠して表す。いるのかどうか薄く映る龍は、自然の中の自分、即ち「人間」

のアバターであると同時に、自然そのものでもある。

制作にあたって主に考える風景や、龍を表したところはあるが、観る側は限りなく自分の中の自然を想像できればと思う。[Colorful side] と [Sunny side] は元々同じ心象をもって描いた作品であるが、その表し方は異なる。[Colorful side] は自然の多彩な面々を多様な色と彫り方で見せようとした反面、[Sunny side] はその色鮮やかな自然が光に当たって光に染まることを黄色を中心に表現した。そして、その所々に龍が共存する。